

第1回自然保護講座の報告

自然環境保全センターでは自然観察に関するリーダー（フィールドスタッフ）を育成するためにフィールドスタッフ養成講座を開催しています。講座の内容はいろいろありますが、その一つに自然保護講座があります。今回野生動物救護の会は自然環境保全センターからの要請で今年度の第1回自然保護講座を担当することになりました。

日時は12月7日（土）午後1時30分～4時。雨で気温の下がる天気予報で心配されましたが、講座の始まるころには雨も止み約50名ほどの参加者がありました。講座のテーマは「神奈川県野生動物の現状と救護活動について」です。

救護の会の理事長はじめ4名のスタッフで、野生動物救護の会の日頃の活動を詳しくわかりやすく説明しながらテーマに沿った内容を深めていきました。「神奈川県傷病鳥獣救護システム」「傷病鳥獣の保護件数とその原因」「野生動物救護ボランティアのシステム」「野生動物救護の現状」「普及啓発活動」「足環プロジェクト」「バードストライク研究会」「Mプロジェクト」「巣箱調査」「羽根標本」「痕跡調査」などと盛りだくさんの内容でした。救護の原因には人間の生活が深く関わっていることや救護される野生動物が少なくなるよう活動していることを強く訴えました。参加者からは多くの質問もあり、関心の高さがうかがわれました。最後に自然に帰れなくなった実物のフクロウの登場で野生動物救護の現状を強く訴えることができましたと思います。

佐藤幸太郎

感想が届いています。

この講座の良かった点、悪かった点を教えてください。

- ・ビデオで実際の映像が見れたので具体的に良く分かった。
- ・質問の内容が質問というより個人の意見を聞く時間となってしまった点。

この講座で、何か新しいことが理解できた、発見できたとしたら何ですか。

- ・バードストライクは頭部損傷による死亡が多いと思っていたが、内臓損傷が多いというデータを見て、原因を調べることが大切だと思った。
- ・保護から飼養、放野まで順を追って説明されていて、よく理解が出来ました。普及啓発も積極的に取り組んでいて、今後に期待します。
- ・紛綿羽というものが有るという事を、初めて知りました。
- ・地味な活動の中苦勞されている様子に感銘を受けました。（放野の様子を見て）
- ・野生動物の価値について考えるきっかけとなった。
- ・「救護の会」の方々の体験に基づいたお話の中で、かわいいと思わないで、飼おうと思

わない で、と言われた言葉の裏にある、ご苦労話などは勉強になりました。

・神奈川県での野生動物が保護された件数の多さや野生動物救護に携わっているボランティアの人たちの大変さや大切さを実感しました。

